



一高見島プロジェクトの取り組み一

2013年瀬戸内国際芸術祭参加を機に京都精華大学有志が始めた高見島プロジェクトは、今年で4回目の参加になります。高見島プロジェクト2022は屋外作品も含め新作は9点、11軒の古民家に作品を展開し、ちょっと欲張りな内容になりました。私は準備期間も含め10年この島に通っています。この間活動の中心地、浦地区の山手にはとうとう住む人がいなくなり、何軒かの家が崩壊する姿を目にしてきました。住まなくなり利用されなくなった家々が、自然に飲み込まれるのはあつという間です。私たちはここに住むことはできませんが、空き家になった家々を様々な形で利用することが、島の景観の保護、歴史や文化の保存に繋がるのではないかと考えています。

2020年には島に多く残る空き家を利用し、島丸ごと美術館計画を始めました。ここでは美術館の展示室をめぐるように古民家をめぐり、作品とともに塩飽大工が建てた独特な家々も鑑賞するのです。今年は新たにTAKAMIJIMA INSIDE GALLERYをオープンします。黒い美しい梁が特徴の高見でも珍しい間取りの家が、ギャラリーに生まれ変わりました。新しい作品発表の場として、プロジェクトに広がりを与えてくれることでしょう。また課題であった年間を通して利用できる宿舎を新たに整備し、プロジェクトに関わる全ての人が利用できるようにしました。長年使われていない家に新鮮な空気が入ると、家も呼吸が始まり元気になります。人の気配に戻ってきたツバメの子育ても無事終了、賑やかな巣立ちは感動的でした。

高見に来ると早起きになります。高台にある宿舎の食卓からは、眼下に朝日に照らされてキラキラと美しい瀬戸内海が見えます。この家ができてから約100年、いつまでもこの海を眺めていたいものです。

高見島プロジェクト代表 内田晴之



- ① 「Merry Gates」・・・P4
内田晴之 / Haruyuki Uchida
- ② 「時のふる家」・・・P44
Time Falls
中島伽耶子 / Kayako Nakashima
- ③ 「Re:mind」・・・P8
山下茜里 / Akari Yamashita
- ④ 「まなうらの景色2022」・・・P12
Remains in the Mind's Eye
村田のぞみ / Nozomi Murata
- ⑤ 「The Waiting Point」・・・P16
エリ ハヤシ / Eri Hayashi
- ⑥ 「高見島の木」・・・P20
Takamijima tree
竹腰耕平 / Kohei Takekoshi
- ⑦ 「過日の同居2022」・・・P24
Staying in Past Days 2022
藤野裕美子 / Yumiko Fujino
- ⑧ 「うつりかわりの家」・・・P44
Transition House
中島伽耶子 / Kayako Nakashima
- ⑨ 「通り抜けた家」・・・P28
blown through
鐵羅佑 / Yuu Tetsura
- ⑩ 「かたちづくられるもの」・・・P32
A "figure" formed by the "ground"
鈴木健太郎 / Kentaro Suzuki
- ⑪ 「はなのこえ・こころのいろ」・・・P40
Voice of Flowers – Color of Hearts
小枝繁昭 / Shigeaki Koeda
- ⑫ 「～ melting dream ～/
高見島パフェ」・・・P36
西山美なコ / Minako Nishiyama

内田晴之 Haruyuki Uchida
Merry Gates



素材：ステンレススチール 磁石 塗料
Material : Stainless steel magnet paint

Size : W750 x D106 x H 337cm

Merry Gates

門は、私達を“違う場所”へと連れて行く。

身近な存在でありながら、二つの空間を象徴し、それを繋ぐ特別な境界線である。

いつもの見慣れた景色を特別なものにする、門にはそんな力を感じる。

門の向こうの幸運を願い、Merry Gatesを制作した。



内田晴之

Haruyuki Uchida



1952 静岡県に生まれる。

1984 第15回日本国際美術展 [大賞] / 東京都美術館

1997 第17回現代日本彫刻展 [大賞] / 宇部市常盤公園

瀬戸内国際芸術祭、越後妻有アートトリエンナーレ、オーストラリアで開催されている野外彫刻展Sculpture By The Seaなどに継続的に参加している。

1952 Born in Shizuoka, Japan

1984 “15th Japan International Art Exhibition”

Tokyo Metropolitan Art Museum [Grand Prize]

1997 “17th Contemporary Japanese Sculpture Exhibition”

Tokiwa Park, Ube City [Grand Prize]

Continued to participate in the Setouchi Triennale, Echigo Tsumari Art Triennale, and the Australian outdoor sculpture exhibition Sculpture By The Sea.

Hp : <https://www.haruyukiuchida.com/>





Re:mind

「家」は人が整え、人が暮らすところ。
「家」は人がそこで生きることで初めて成り立つ場所。
「家」にはそんな人の気配が溢れていた。

人がそこを去れば、その気配は自ずと消える。
そして抜け殻のようになった「家」は形としてはそこにあり続ける。
ただそれは、本当に「家」なのか。

人はそこに、たくさんのモノを隠してきた。

人の気配が消え去ったあと、次にはこのモノの気配が充満してくる。
ぎゅうぎゅう詰め押し入れの襖が開かれるときを、
彼らはじっと待っているのかもしれない。

何か一枚隔てたそのさきに、たくさんのモノが隠されている。
もしそれが、剥がされ、めくられ、陽の下に暴かれたとき、隠されていたモノたちは
何を思うのだろう。今まで見ることのなかった初めての光景に
どのような眼差しを送るのだろう。

わたしはそんな「家」を少しだけめくる。



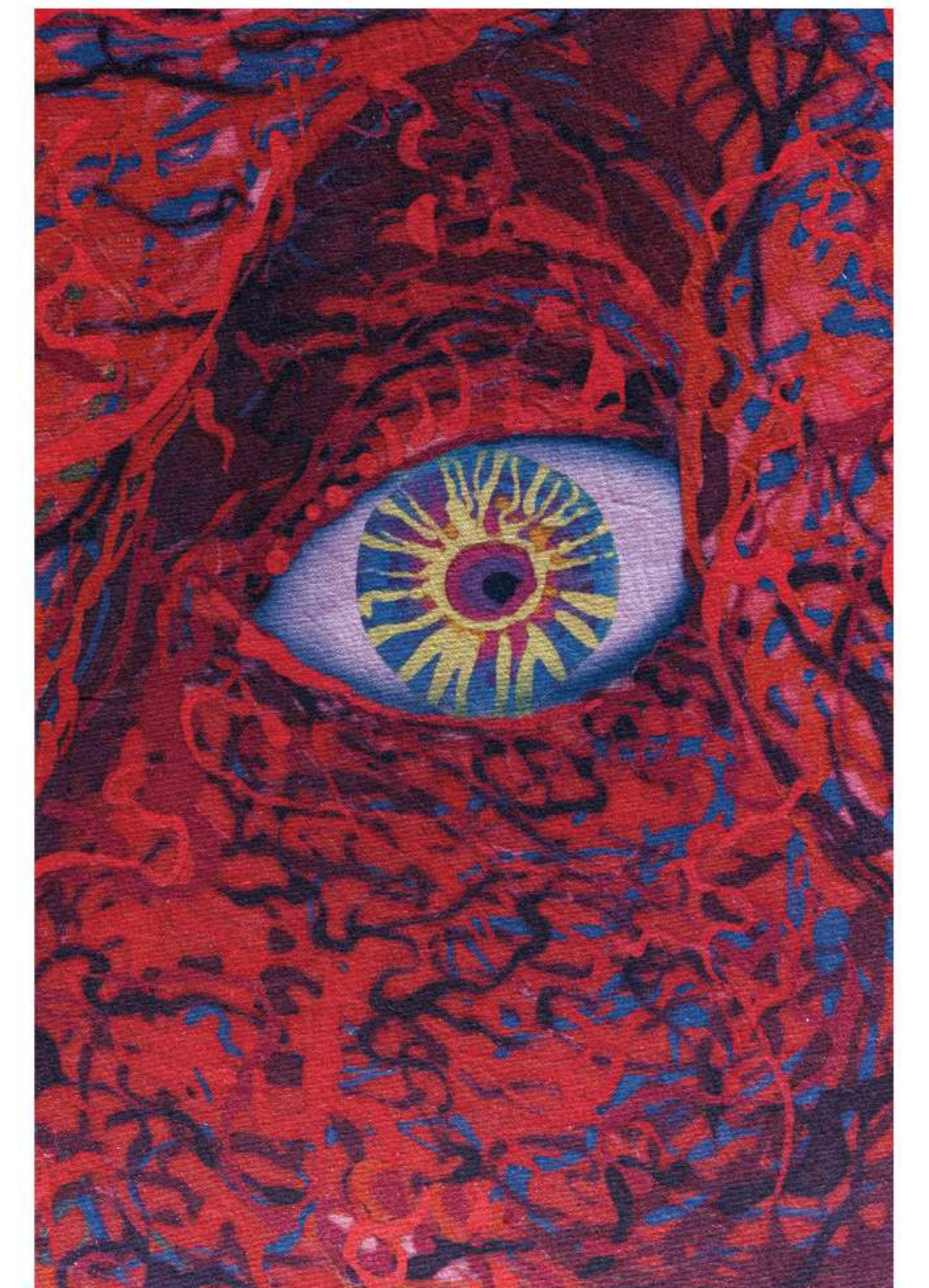
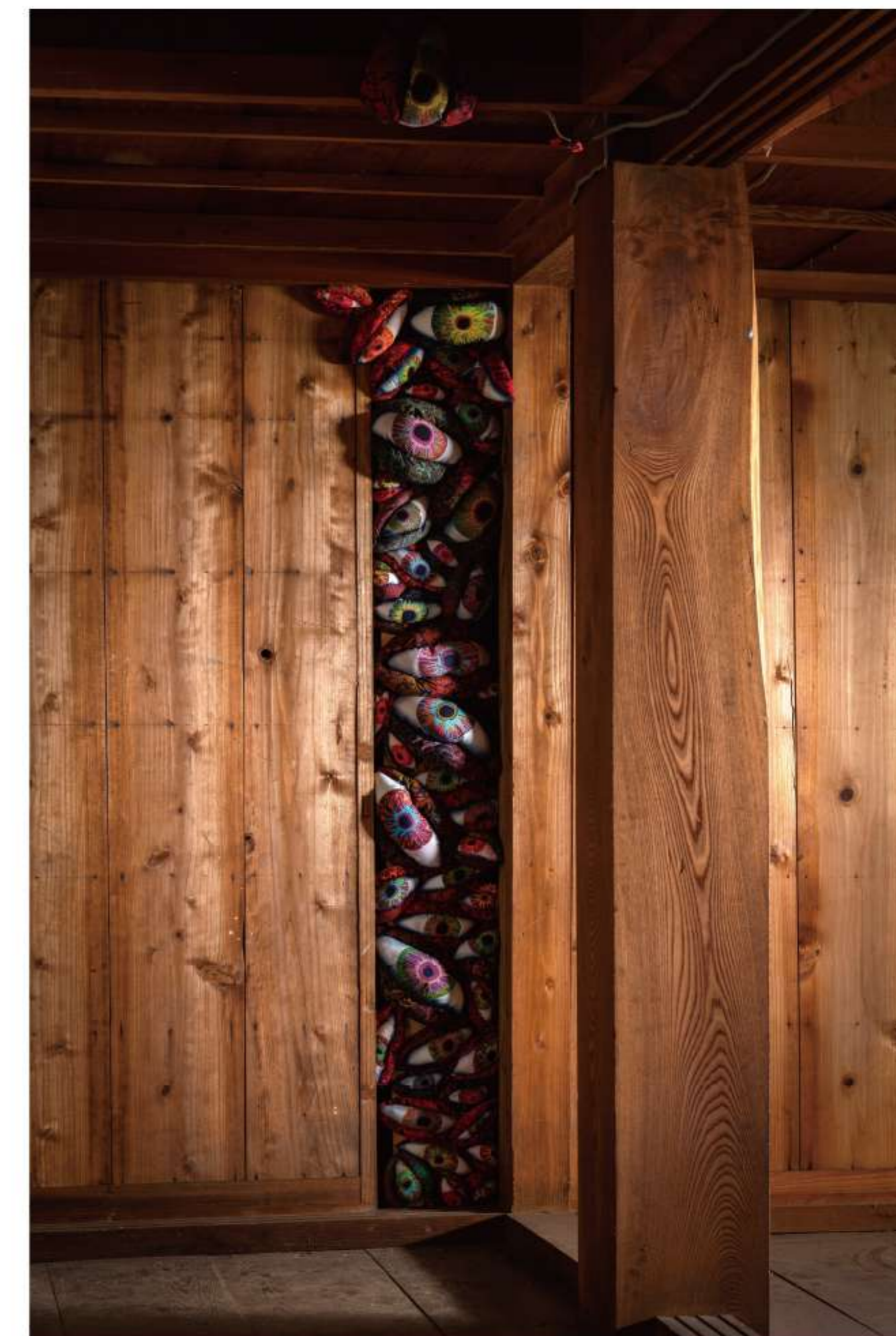
山下茜里
Akari Yamashita



1997年 大阪に生まれる
2021年 京都精華大学芸術研究科博士前期課程修了
2017年 第55回兵庫県展 部門大賞(知事賞) 工芸部門
2019年 第22回染・清流展 (染・清流館/京都)
2020年 YAMASHITA Akari solo exhibition-BORDER-
(KUNST ARZT/京都)
2021年 A-Lab Artist Gate 2021(あまらぶアートラボA-Lab/兵庫)
2022年 Kyoto Art for Tomorrow 2022 -京都府新鋭選抜展-
(京都文化博物館/京都)

1997 Born in Osaka, Japan
2021 M.F.A., Art, Kyoto Seika University, Kyoto, Japan
2017 The 55th Hyogo Prefectural Exhibition, Grand Prize
(Governor's Prize), Crafts Division
2019 The 22nd Exhibition of "some Seiryuten"
Some・Seiryukan, Kyoto
2020 YAMASHITA Akari solo exhibition-BORDER-
KUNST ARZT, Kyoto
2021 A-Lab Artist Gate 2021 A-Lab, Hyogo
2022 Kyoto Art for Tomorrow 2022 The Museum of Kyoto, Kyoto

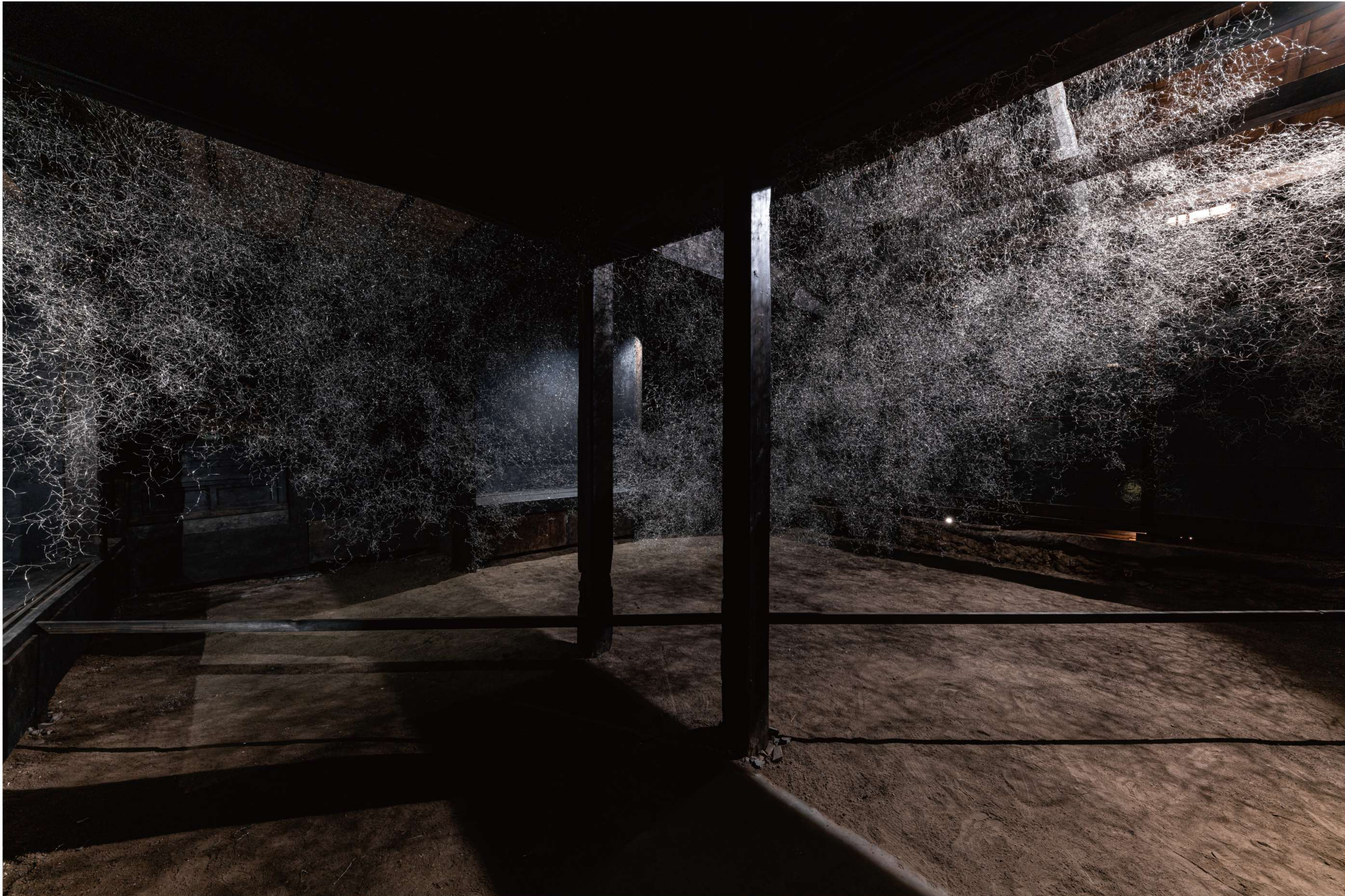
HP: <https://www.yamashita-akari.com>



村田のぞみ Nozomi Murata

まなうらの景色2022

Remains in the Mind's Eye 2022



素材：ステンレス線 Material : stainless wire

まなうらの景色2022

Remains in the Mind's Eye 2022

この作品は、「瀬戸内国際芸術祭2019」で展示した作品を、今年度の芸術祭開催に向けて新たに再構成した作品です。

「まなうら」とは、まぶたの裏を指す言葉です。

かつてこの家が見た姿や景色、またこれから思い描く景色について、想像するための空間になれば幸いです。

また、本制作においてご尽力頂いた沢山の方々に深く感謝申し上げます。



村田のぞみ

Nozomi Murata



1994 奈良県に生まれる

2019 「瀬戸内国際芸術祭2019」高見島/香川

2020 「ウィルヘルミーの吊り板」MEDIA SHOP gallery2/京都

2022 アートハウスいこね企画展「その匙を緩める」

art house icone/大阪

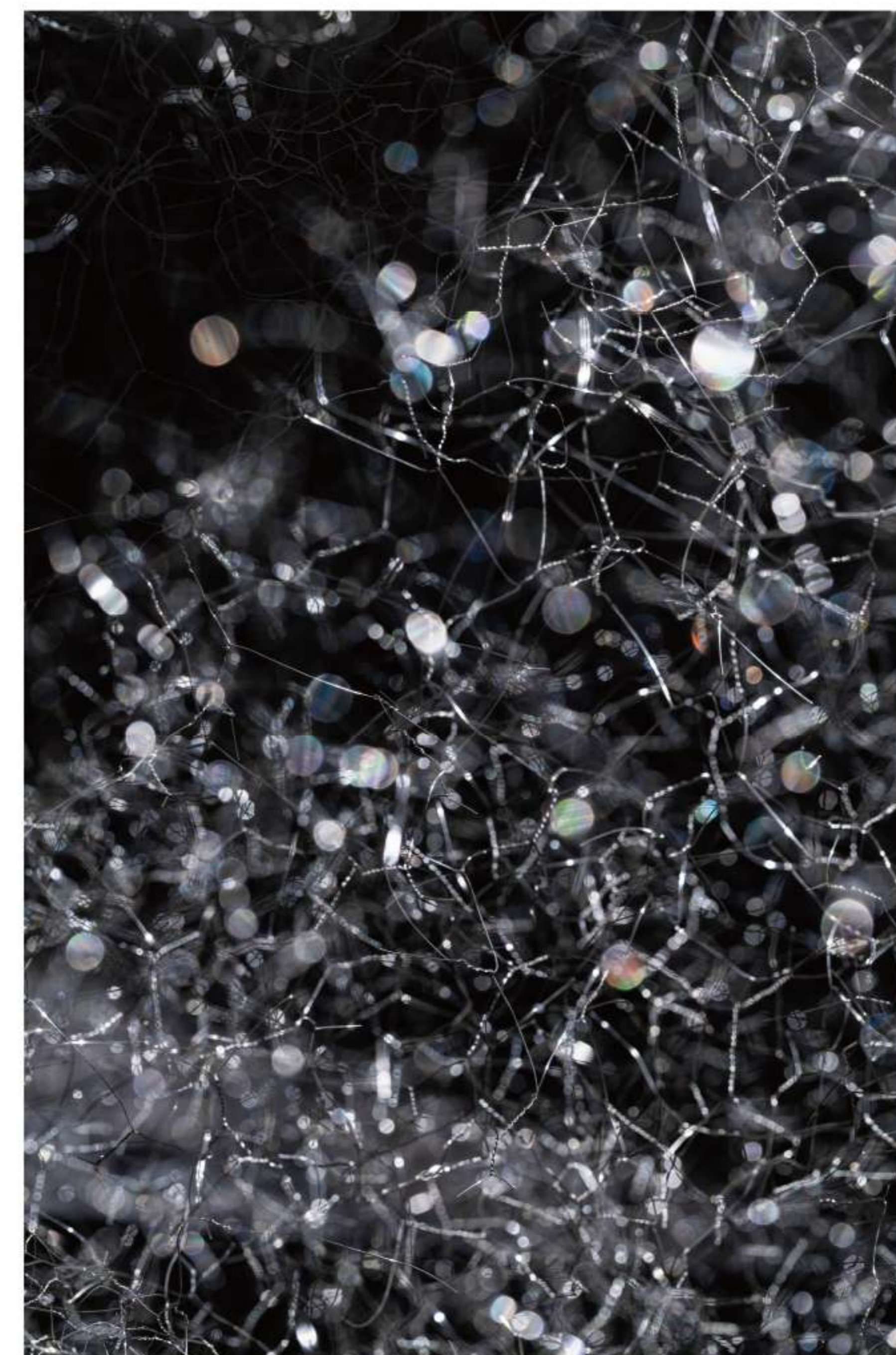
1994 Born in Nara, Japan

2019 “Setouchi Triennale 2019” Takamijima, Kagawa

2020 “Wilhelmy Plate” MEDIA SHOP gallery2, Kyoto

2022 “Loosening Your Spoon” art house icone, Osaka

HP : <https://www.muratanozomi.com>



Eri Hayashi
The Waiting Point



The Waiting Point

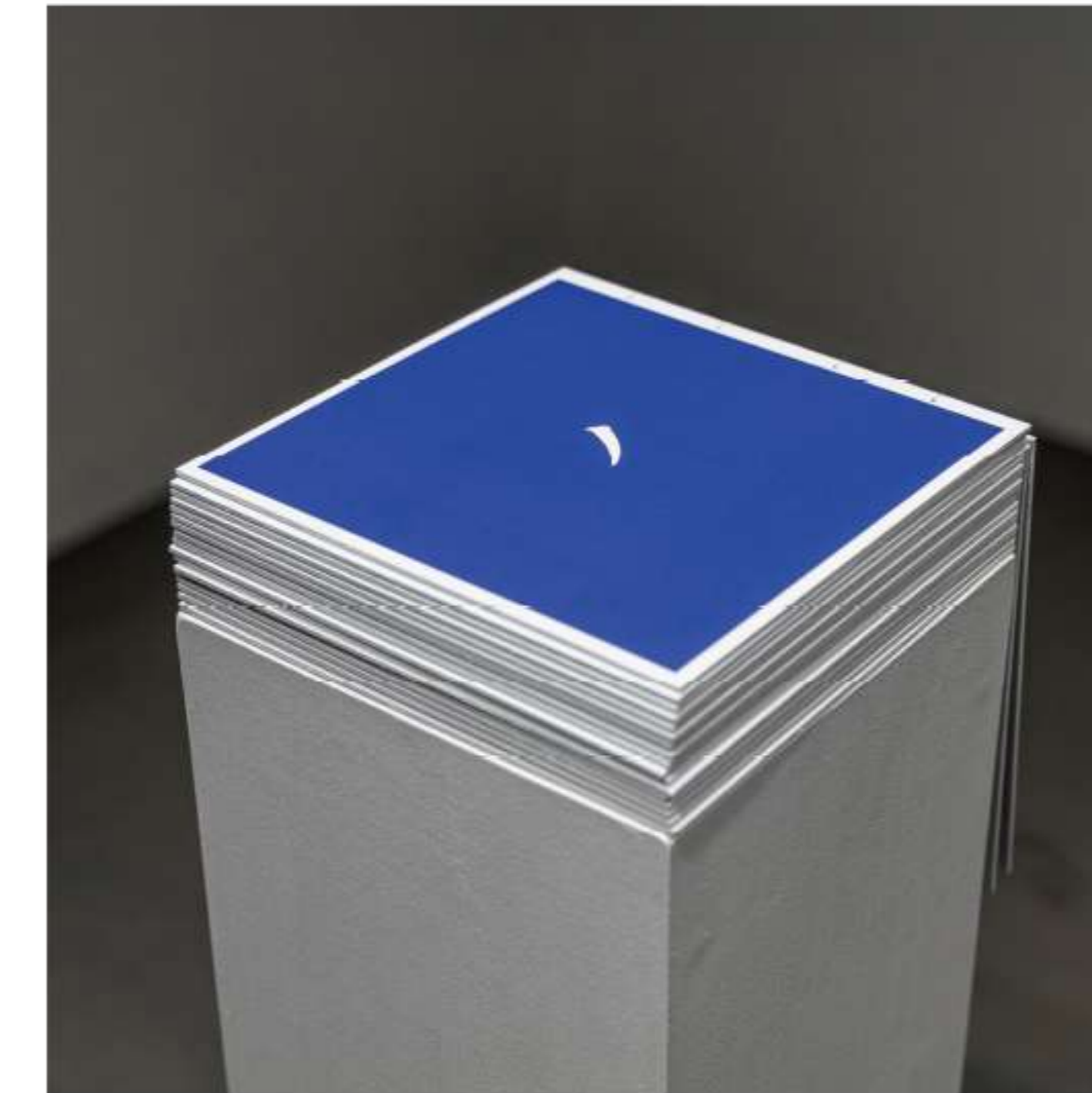
高見島には空海が開基したというお寺がある。空海といえば「弘法も筆の誤り」が思い浮かんだ。

ドイツ語の諺に該当させるならば「Es ist noch kein Meister vom Himmel gefallen. (名人は空から降ってきたことはない)」、少々無理矢理だけれど。

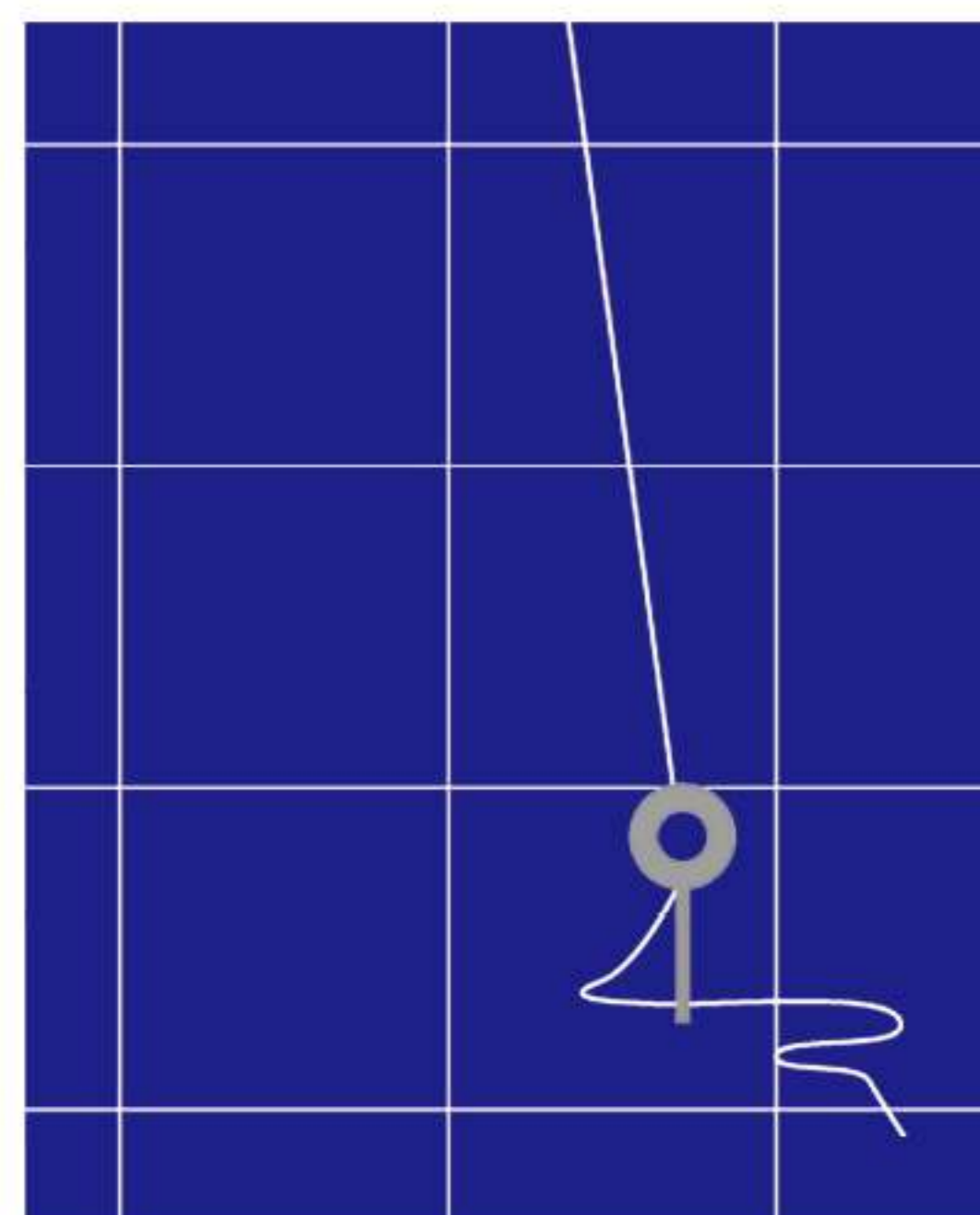
ところで弘法が筆を誤ったのは「應」の点だそうだなんだか高見島の形が忘れられた点に見えてきた。そういううっかりは世界中にあるだろう。

(弘法はすぐに直したそうだが)忘れられた点達はどのような気持ちだろうか。

空からマイスターが降ってくるのを静かに待っているのだろうか。



Eri Hayashi



1990年生まれ
 2019年 ブルグ・ギービヒェンシュタイン美術大学芸術学部
 絵画学科イメージ・空間・オブジェ・ガラスコース
 ディプロム号取得(教授:Christine Triebisch)
 2021年 ブルグ・ギービヒェンシュタイン美術大学芸術学部
 絵画学科イメージ・空間・オブジェ・ガラスコース
 マイスター号取得(教授:Christine Triebisch)

助成
 2018年 平成30年度ポーラ美術振興財団在外研修員(ドイツ)
 2019年 平成30年度吉野石膏美術振興財団在外研修員(ドイツ)
 2020年 Start-up Grants for Emerging Craftspeople,
 Artists and Designers in Glass 2020/21

Born in 1990
 2019 Diplom, Burg Giebichenstein University of Art and Design,
 Image/Space/Object/Glass, Prof. Christine Triebisch
 2021 Meisterschüler, Burg Giebichenstein University of Art
 and Design, Image/Space/Object/Glass, Prof. Christine
 Triebisch

Grants
 2018 Grants for Overseas Study by Young Artist of Pola Art
 Foundation(Germany)
 2019 Grants for Overseas Study by Young Artist of Yoshino
 Gypsum Art Foundation(Germany)
 2020 Start-up Grants for Emerging Craftspeople, Artists and
 Designers in Glass 2020/21

Twitter:erihayaglas
 Instagram:erihayashi
 eri hayashi
 info.erihayashi@gmail.com



竹腰耕平 Kohei Takekoshi

高見島の木

Takamijima tree



高見島の木
Takamijima tree

自然との境界が曖昧になりつつある島で、人の残した家屋の跡と取り囲む庭を仰ぎ見る。

家屋の中から覗くと、庭があり、海と空が広がる。一つ一つはかけ離れているようで、

すべては同じ屋根の下にあるようにも見える。

人の手を長く離れた木は、奥に霞む瀬戸内海や島々と変わりなく。自然との在り方を

問いかけるように感じる。



竹腰耕平
Kohei Takekoshi



- 1992 岐阜県出身
- 2017 京都精華大学大学院 芸術研究科 立体造形領域 修了
- 2015 第26回 UBE ビエンナーレ (現代日本彫刻展) 大賞 / 山口
- 2016 瀬戸内国際芸術祭 2016 / 香川
- 2017 Gæsteatelier Hollufgård - artist in residence デンマーク, Odense
- 2018 蕪崎市「幸福の小径」立体作品設置事業蕪崎市長賞 / 山梨
- 2018 Gangwon Environmental Installation Art Exhibition 韓国, Gangwon
- 2021 房総里山芸術祭 いちはらアート × ミックス 2020+ / 千葉

- 1992 Born in Gifu, Japan
- 2017 Graduate school of Kyoto seika University, Japan
- 2015 26th UBE Biennale < Grand Prize > / Yamaguchi
- 2016 Setouchi Triennale 2016 / Kagawa
- 2017 Gæsteatelier Hollufgård - artist in residence Denmark, Odense
- 2018 Nirasaki City Sculpture work install project Mayor's Prize / Yamanashi
- 2018 Gangwon Environmental Installation Art Exhibition Korea, Gangwon
- 2021 ICHIHARA ART x MIX2020+ / Chiba

HP : <https://takecocc.work/>





素材：岩絵具、水干絵具、箔、麻紙、木製枠

Material : Natural mineral pigment, Dyed mud pigment, Foil, Hemp paper, Wooden frame 25

過日の同居
Staying in Past Days

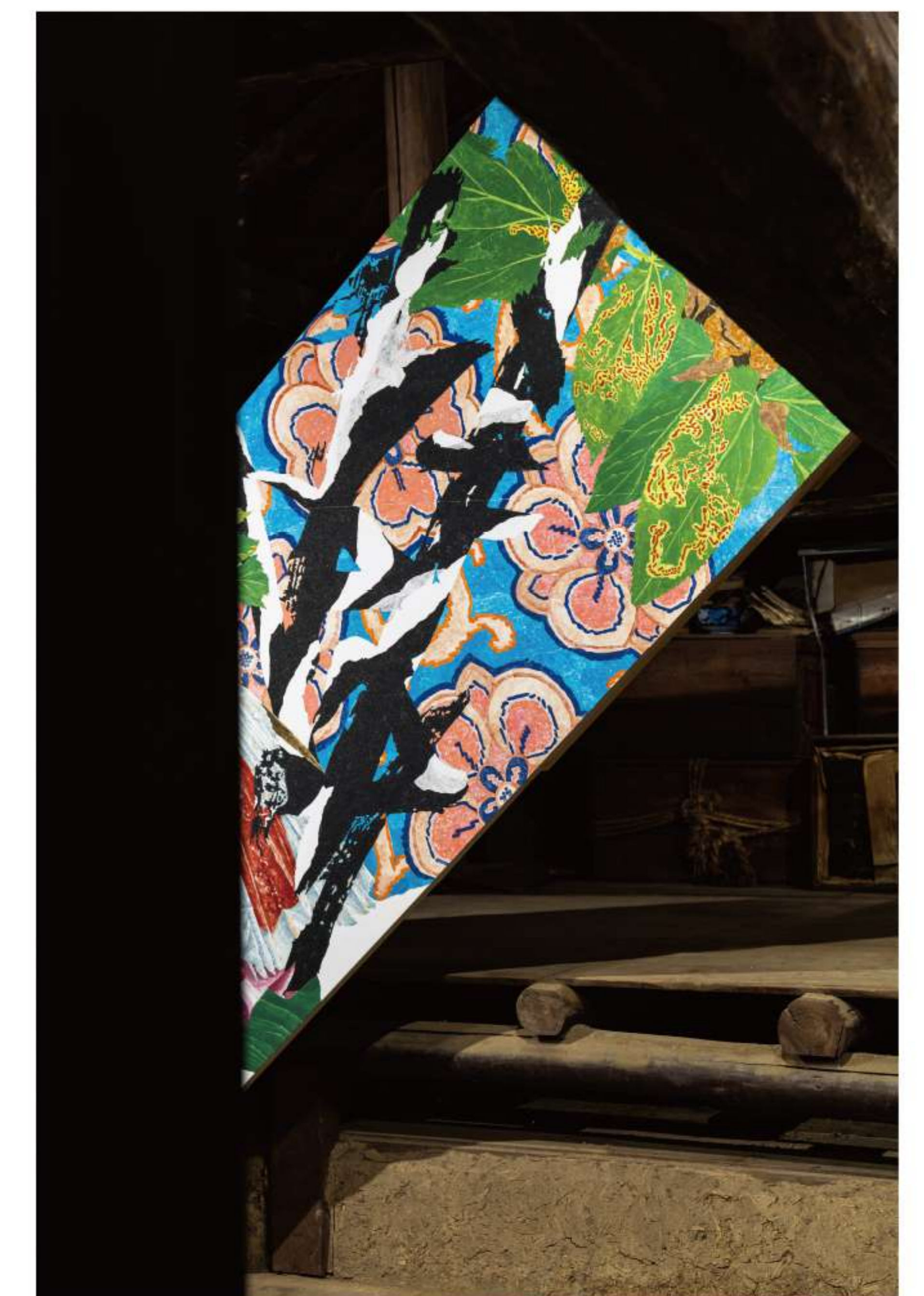
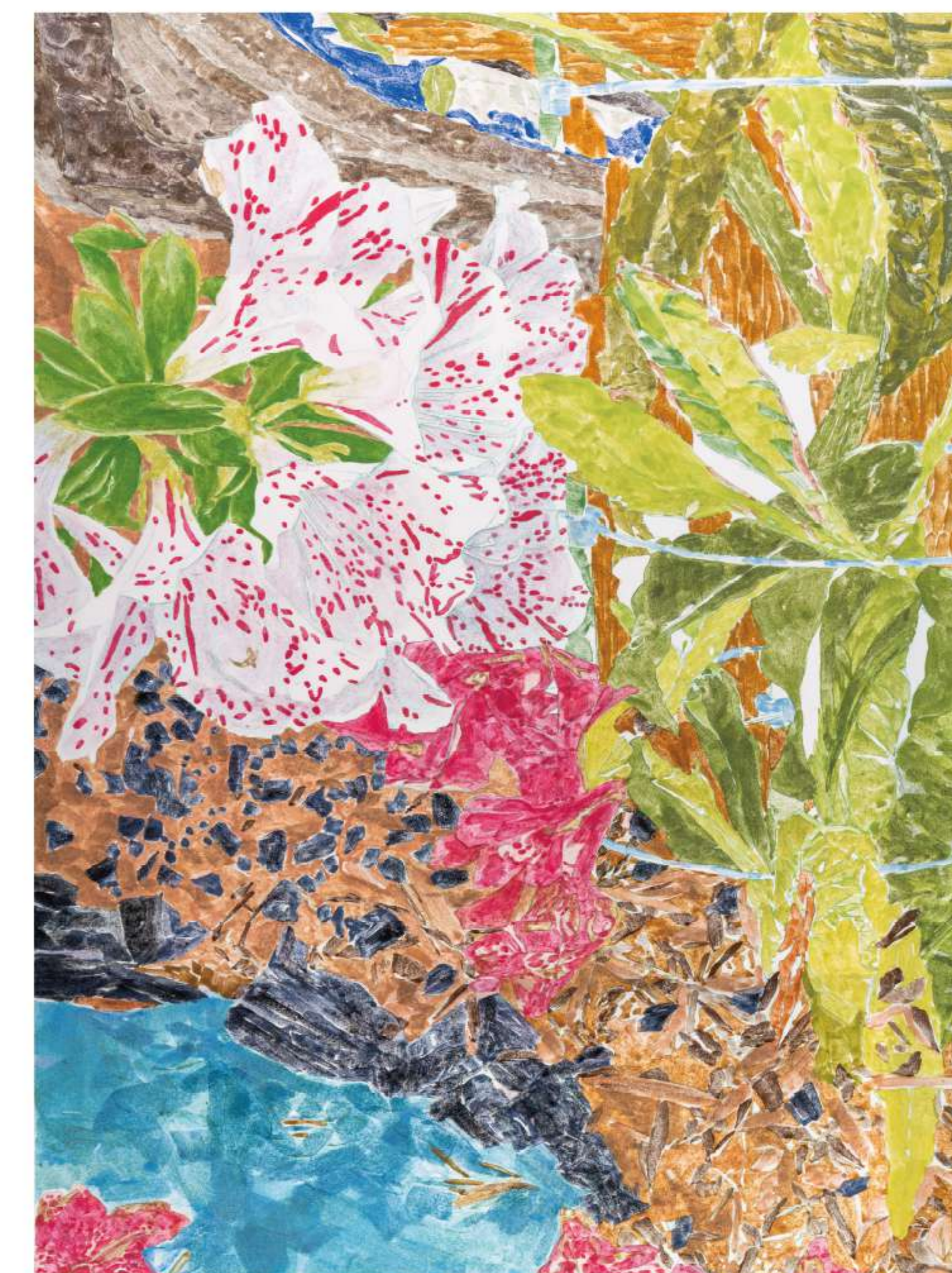
高見島板持地区の空き家を取材し、そこに残された家財道具や日用品、
放置された庭の植物、あらゆる場所にあった事物を画面上で継ぎ接ぎしています。
過去と現在、あちらとこちら、家主と自身。それぞれの地点は、少しずつ変化しながら、
距離をおきながら、時に途切れてはどこかで接続しています。所在や時間を越えて、
画面の中で隣り合う事物が新しい距離で重なり、関係を作ります。
私にとって描くことは、関係のなかった事物と接点を生み出すことです。
誰かが絵画と相対する時、絵画の中に巡る時間がさらに外側と繋がることを
イメージして空間を構成しています。



藤野裕美子
Yumiko Fujino



- 1988年 滋賀県生まれ
- 2012年 L'Art dans les Cités アーティスト・イン・レジデンス(フランス)
- 2013年 京都精華大学 大学院芸術研究科 博士課程前期 日本画専攻 修了(修士)
- 2020年「過去の滞在／藤野裕美子 個展」Gallery Den mym (京都)
- 2020年「滋賀近美アートのスポットプロジェクトVol.3 エンドレス・ミトス」(滋賀)
- 2021年「日日の観察者 Observers of Everyday Life」
HOTEL ANTEROOM KYOTO(京都)
- 2021年「リニューアルオープン記念展 Soft Territory かかわりのあわい」
滋賀県立美術館(滋賀)
- 2021年「滋賀県次世代文化賞」受賞
- 1988 Born in Shiga, Japan
- 2012 Artist in residence in Brittany, France
- 2013 MFA, School of Art, Kyoto Seika University
- 2020 Staying in Past / Yumiko Fujino's Solo Exhibition Gallery
Den mym (Kyoto)
- 2020 Modern Museum of Art Shiga, Art Spot Project Vol.
3 endless-μίτος (Shiga)
- 2020 Observers of Everyday Life / HOTEL ANTEROOM KYOTO I
Gallery 9.5 (Kyoto)
- 2021 Renewal open commemorative exhibition "Soft Territory"
Shiga Museum of Art(Shiga)
- 2021 Shiga Prefecture Cultural Award for the Next Generation
- <http://yumikofujino.web.fc2.com/>



鐵羅佑 Yuu Tetsura

通りぬけた家 blown through



通りぬけた家
blown through

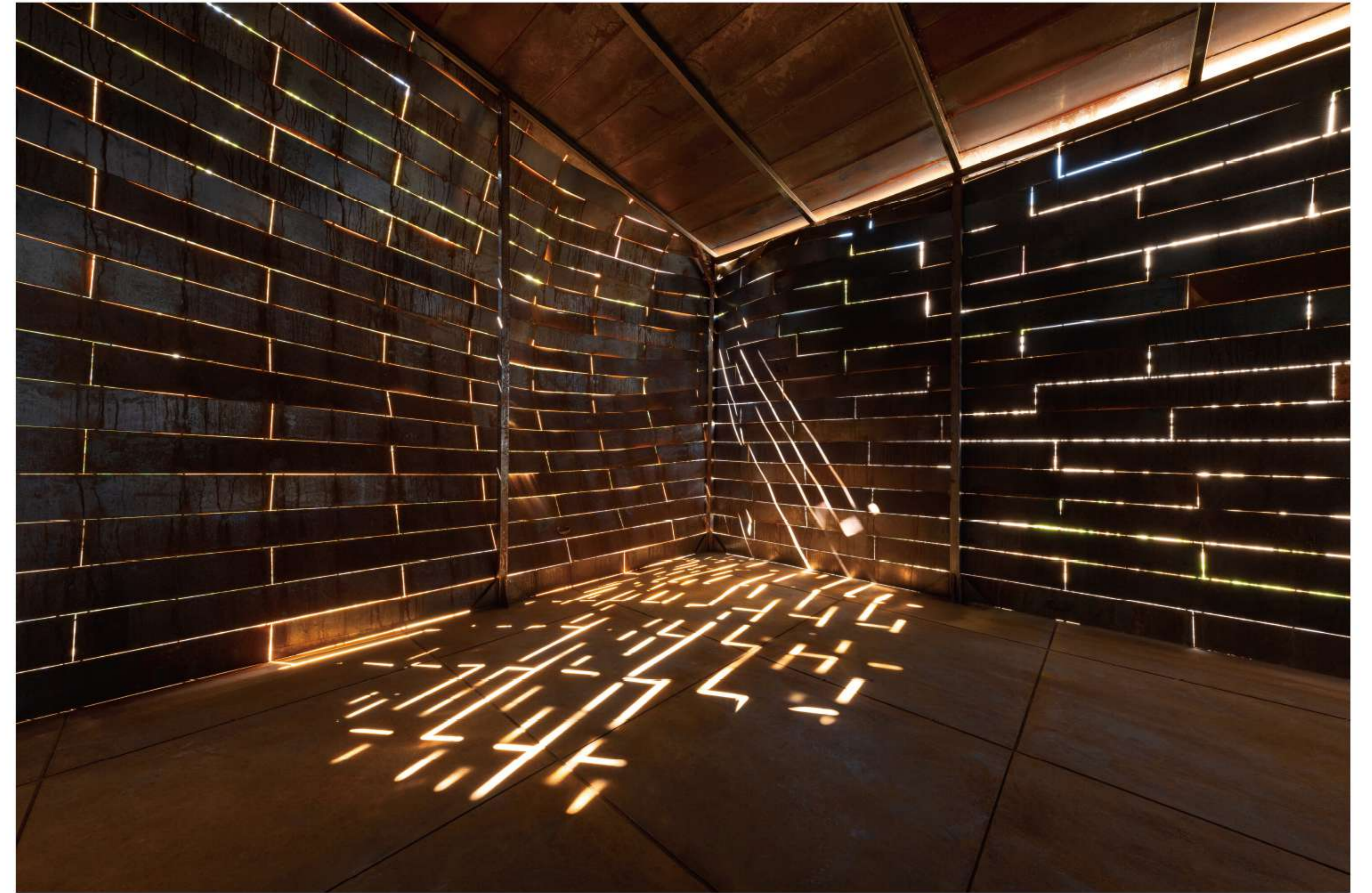
人の営みがなくなり自然の力によって、その半分が崩れさった廃屋。

その上に人為の象徴である鉄板を用いて再構築された家。

人の時間と自然の時間。

2つの時間が家の隙間を吹き抜け、

元の家の存在を可視化し現在と過去が交錯する。



鐵羅佑
Yuu Tetsura



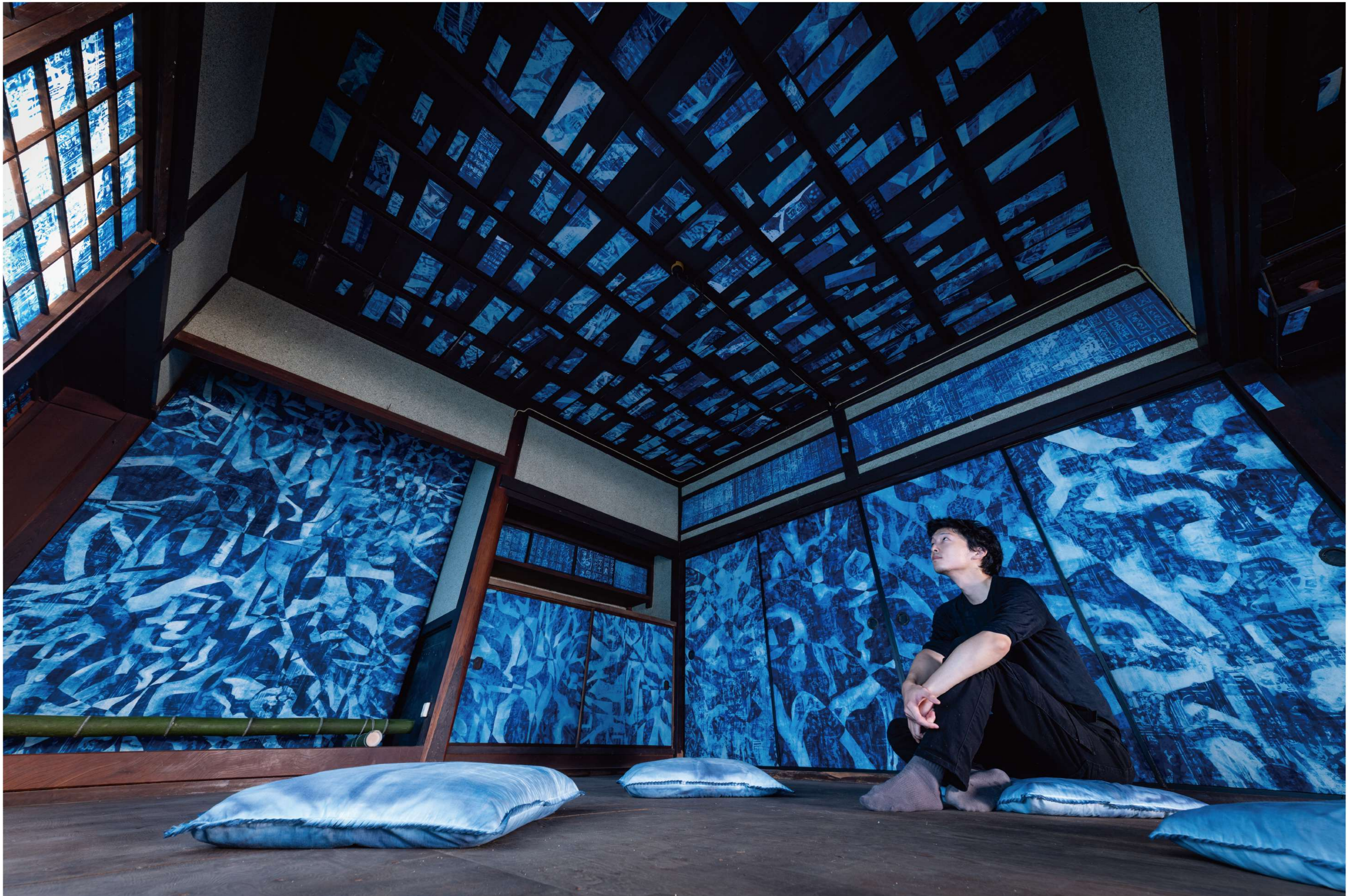
- 2022年 越後妻有 大地の芸術祭2022 枯木又プロジェクト(新潟)
芸術準備室ハイセン作品展2022(滋賀)
尼崎アート・ストロール2022(兵庫)
- 2021年 三人展「介在する気配」 スタジオツキミソウ(京都)
六甲ミーツアート芸術散歩2021 公募大賞準グランプリ
A-Lab Artist Gate2021 あまらぶアートラボ「A-Lab」(兵庫)
- パブリックコレクション
「かすむ」大阪千島財団、パラドール北加賀屋
- 2022 ・Echigo-Tsumari Echigo-Tsumari Art Triennale 2022
Karekimata Project (Niigata)
・Art Preparation Room HAISEN Exhibition 2022 (Shiga)
・Amagasaki Art Stroll 2022 (Hyogo)
- 2021 ・Three-person exhibition "Signs of intervening"
Studio Tsukimisou (Kyoto)
・Rokko Meet Art Art Walk 2021
Open Application Grand Prize , Second Grand Prix
・A-Lab Artist Gate2021 Amalove Art Lab "A-Lab" (Hyogo)
- public collection
"Haze" Osaka Chishima Foundation, Parador Kitakagaya

IG : https://instagram.com/yuutetsura_sculptor?igshid=YmMyMTA2M2Y=



鈴木健太郎 Kentaro Suzuki

かたちづくられるもの A "figure" formed by the "ground"

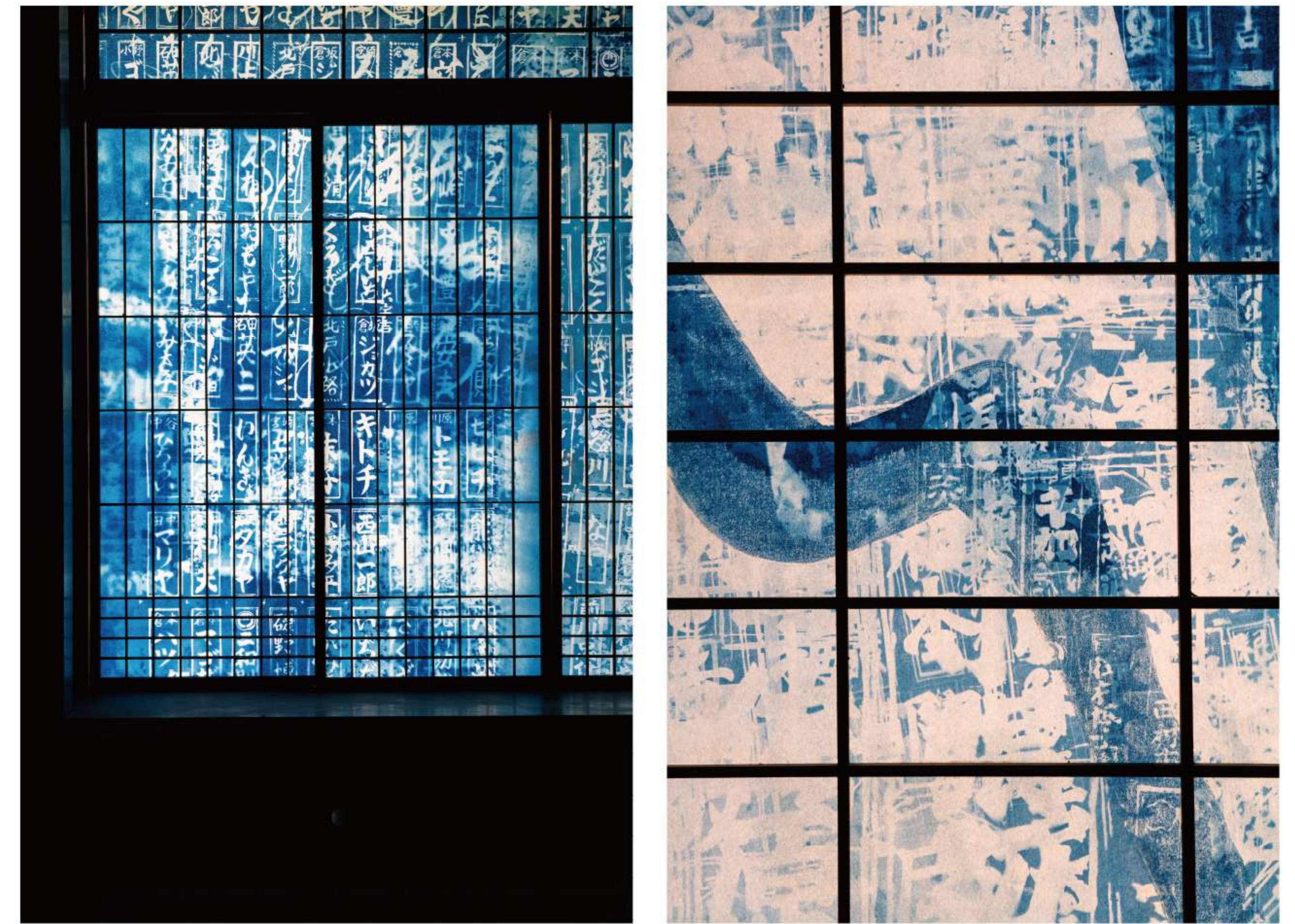


かたちづくりられるもの

A "figure" formed by the "ground"

数十年間放置された家。そこにはかつて暮らしていた人々の記憶が集積し、生々しく残っている。家の修繕や整理を行う過程で、過去の居住者同士の交流やそこで育まれた文化の痕跡を感じることができた。

このような人と人との繋がりは、寺社仏閣に貼られた千社札と酷似する。無数の札は、全く異なる時代、異なる地域で生まれ育った人々によって貼られたものだ。札は群になることで、その場所を聖域としてかたちづくっている。高見島においても、過疎化が進み空き家が自然に飲まれたとしても、そこに暮らしていた居住者の痕跡に魅力を感じた人々によって新たに繋がりが生まれ、これらの繋がりが、高見島をかたちづくっているのだろう。過去の居住者の屋号をモチーフに、時空を超えた人々の繋がりを表現する。



鈴木健太郎
Kentaro Suzuki



- 1996年 京都府に生まれる。
- 2021年 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程
芸術専攻日本画領域 修了
- 2022年 鈴木健太郎 個展 かたちづくりられたものの記憶
(京都写真美術館ギャラリー・ジャパネスク/京都)
- 2021年 鈴木健太郎 個展 FIGURE AND GROUND (maronie/京都)
- 2021年 千客万来-人と魚、道と繋がりと (DELTA/京都)
- 2020年 鈴木健太郎 個展 TRACE (maronie/京都)
- 2019年 第5回石本正日本画大賞展 (入選) (浜田市立石正美術館/島根)
- 2018年 第2回新日春展 (入選) (東京都美術館/京都市美術館 別館/京都)
- 1996 Born in Kyoto, Japan
- 2021 MFA, Japanese Painting, Kyoto Seika University
- 2022 Kentaro SUZUKI Solo Exhibition "Memories of Shaped Things"
(Kyoto Museum of Photography Gallery Japanesque / Kyoto)
- 2021 Kentaro SUZUKI Solo Exhibition "FIGURE AND GROUND"
(maronie / Kyoto)
- 2021 "A thousand guests, a million fish: people, the sea,
and the road between" (DELTA / Kyoto)
- 2020 Kentaro SUZUKI Solo Exhibition "TRACE" (maronie / Kyoto)
- 2019 5th Sho ISHIMOTO Japanese Painting Award Exhibition
(Selected) (Hamada City ISHIMOTO Museum of Art / Shimane)
- 2018 2nd New Nissyun Exhibition (selected) (Tokyo Metropolitan
Art Museum, Kyoto City Museum of Art Annex)



西山美なコ Minako Nishiyama
～ melting dream ～ / 高見島ハフエ
名もなき女性(ひと)達にささぐ...



～ melting dream ～/ 高見島パフェ

名もなき女性(ひと)達にささぐ...

抗いがたい自然の力

時間、重力、そして海の湿気。。

時間がゆっくりと過ぎ、砂糖でできた花は変容していく。。

幾度となく島に通ううちに、実家や大家さんの古い家でみつけたのと同じ匂いを放つ場所がある。

大正、昭和と、かつてそこで生活していた女性(ひと)達のダンスの奥にしまわれたもの達...

数々の男性の武勇伝の陰で、無数の女性が生活をささえ、ひそやかな楽しみや夢の時間を過ごしていたはず...



西山美なコ
Minako Nishiyama



1965年 兵庫県に生まれる。

1991年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科彫刻専攻修了

2007年 個展「～いろいき～」(京都芸術センター、京都)

2009年「広瀬光治と西山美なコの“ニットカフェ・イン・マイルーム”」
(金沢21世紀美術館、石川)

2013年 瀬戸内国際芸術祭2013 (香川、岡山)

2014年 六甲ミーツ・アート芸術散歩 2014 (兵庫)

2021年「フェミニズムズ/FEMINISMS」(金沢21世紀美術館、石川)

1965 Born in Hyogo prefecture

1991 Completed the sculpture MA Graduate School of Fine Arts,
Kyoto City University of Arts

2007 Solo exhibition "～Iroiki～" (Kyoto Art Center, Kyoto)

2009 "Knit Cafe in My Room by Mitsuharu Hirose and Minako Nishiyama"
(21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa, Ishikawa)

2013 Setouchi Triennale 2013 (Kagawa, Okayama)

2014 Rokko Meets Art 2014 (Hyogo)

2021 "FEMINISMS" (21st Century Museum of Contemporary Art,
Kanazawa, Ishikawa)



小枝繁昭 Shigeaki Koeda

はなのこえ・こころのいろ / 除虫菊の家

Voice of Flowers – Color of Hearts / House of Pyrethrum



2004年金刀比羅宮奥書院の伊藤若冲の花丸図が125年ぶりに開帳された。花丸図との出会いは花と向き合い始めたばかりの私にとって大切な出来事となった。以来、若冲のように花の作品で空間を埋め尽くす夢を追いかけながら制作を続けてきた。20年目を迎えたこの春、ようやく12シリーズを完成させ制作点数が108点になった。当初は10年もあれば花丸図の208種を超えられると思っていた。しかし、これがなかなか手強かった。まだ100点描かなければならない。これまでのペースだと若冲到並ぶ頃には90歳を超えることになる。ペースアップは身体によくないし、身体によくないことをすると90歳まで生きられそうもない。などと少し呑気に悩んでいる。108????どこかで思い当たる数字である。なるほど!いくつかになっても悩みは尽きないのかも知れない。

小枝繁昭
Shigeaki Koeda



- 1953 京都府に生まれる。
- 1992 ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ (文化庁芸術家在外研修員)
- 1993 オックスフォード大学・オックスフォード近代美術館 (客員研究員)
- 2019 高見島プロジェクト・瀬戸内国際芸術祭 2019 高見島 (香川)
- 2020 もうひとつの日本美術史—近代版画の名作2020
(福島県立美術館・和歌山県立近代美術館)
ヴィジュアル・ガストロノミー (北海道立近代美術館)
- 2022 個展「月をうつす花」鎌倉画廊 2017,2014, 2011, 2008
- 1953 Born in Kyoto, Japan
- 1992 Stayed in London U.K. [at Goldsmiths, Univ. of London]
(The fellow of the Japanese Government overseas program of Art)
- 1993 Stayed in Oxford U.K.[Senior Research Fellow at The Ruskin School of Art ; Wolfson College, Oxford/Visiting Artist at Modern Art Oxford]
- 2019 Takamijima Project・Setouchi Triennale 2019 autumn-Takamijima, Kagawa
- 2020 Another History of Japanese Art : Masterpieces of Modern and Contemporary Prints 2020Fukushima Prefectural Museum of Art, Wakayama Prefectural Modern Art Museum
Visual Gastronomy / Hokkaido Museum of Modern Art
- 2022 Solo Exhibition “Flowers that reflect the Moon”
Kamakura Gallery 2017,2014, 2011, 2008

HP <http://www.koedashigeaki.com/>



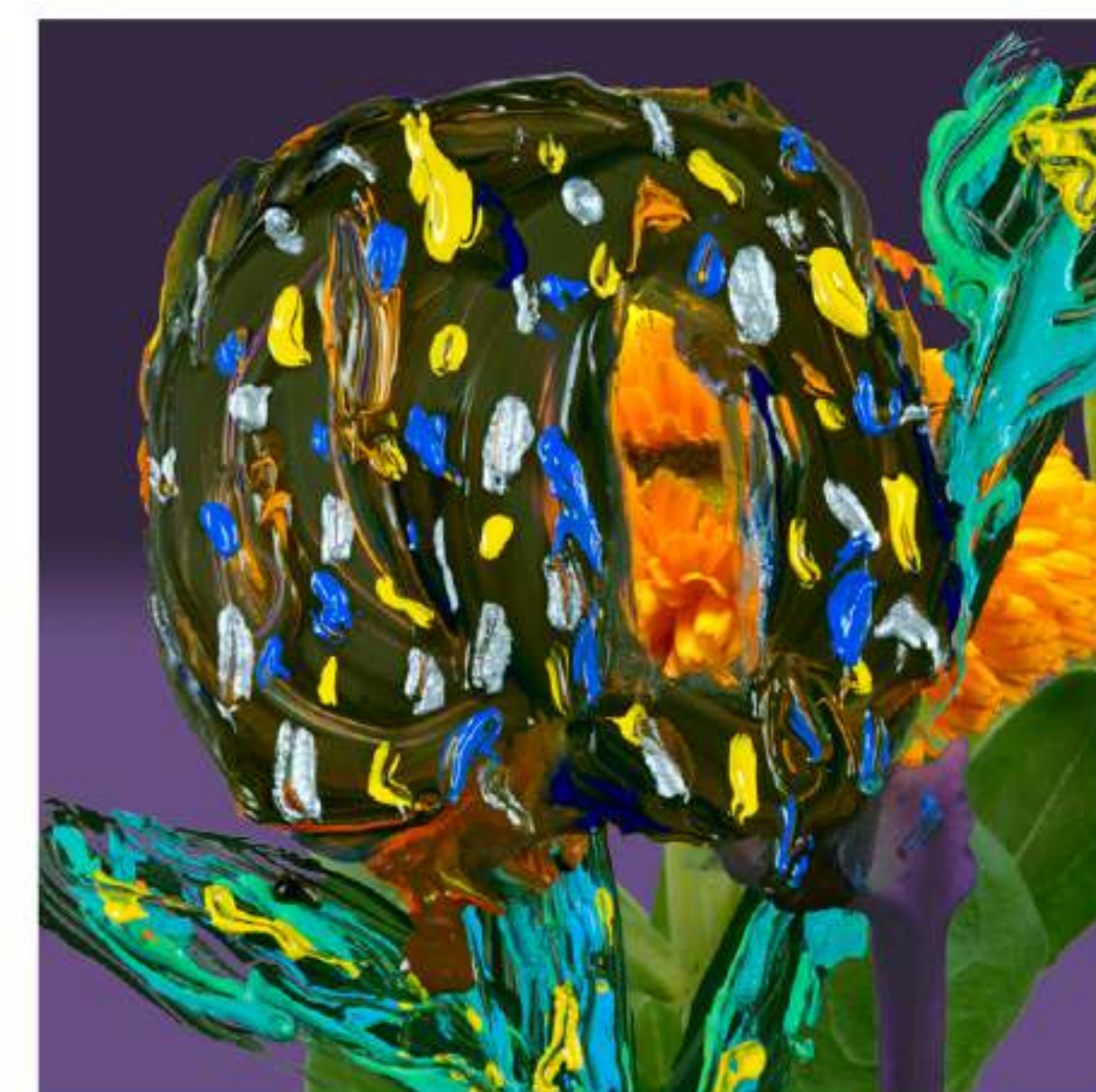
触の時 サンデーバイオレット



触の時 皁月



触の時 除虫菊 a



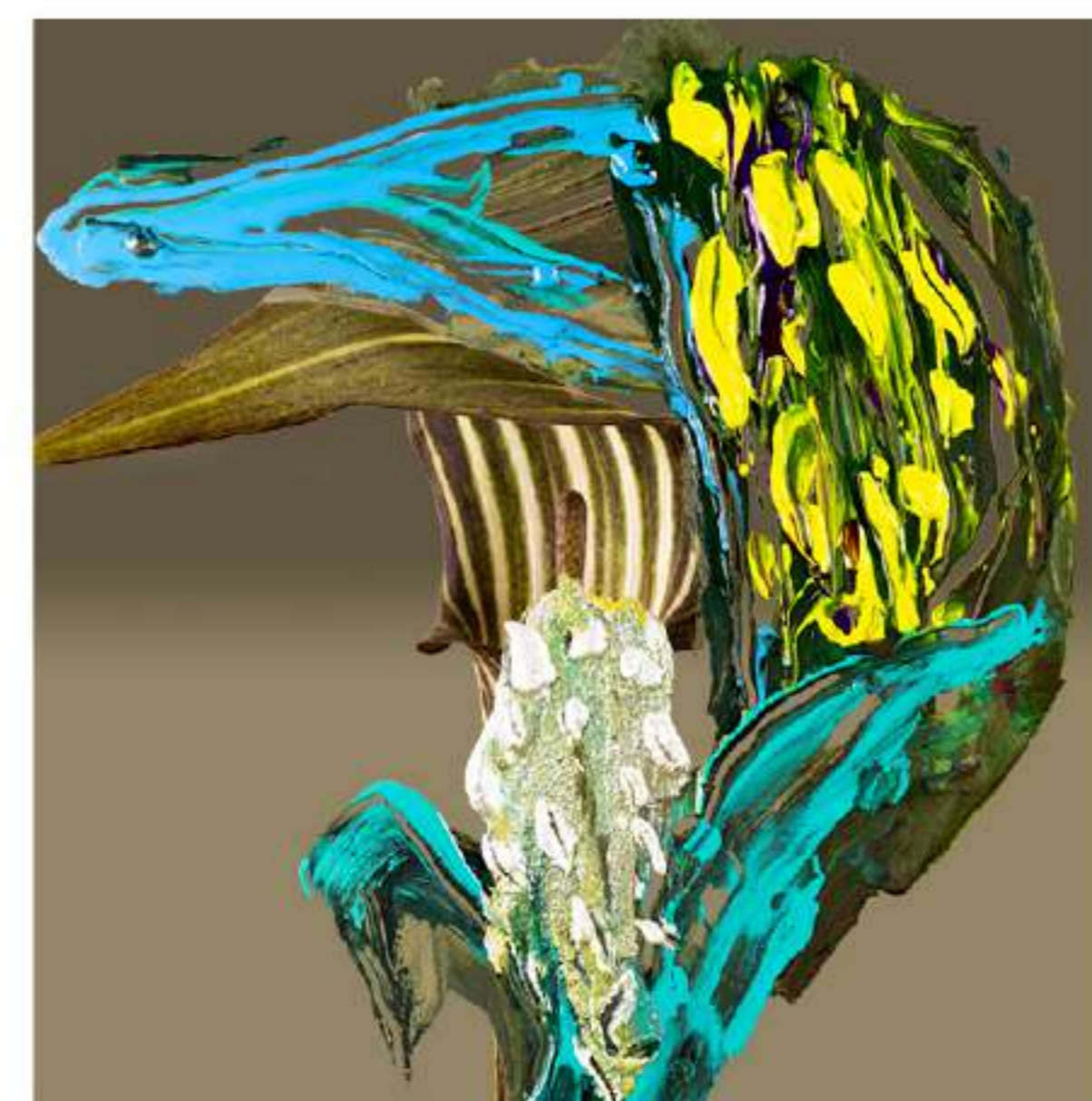
触の時 オレンジスター



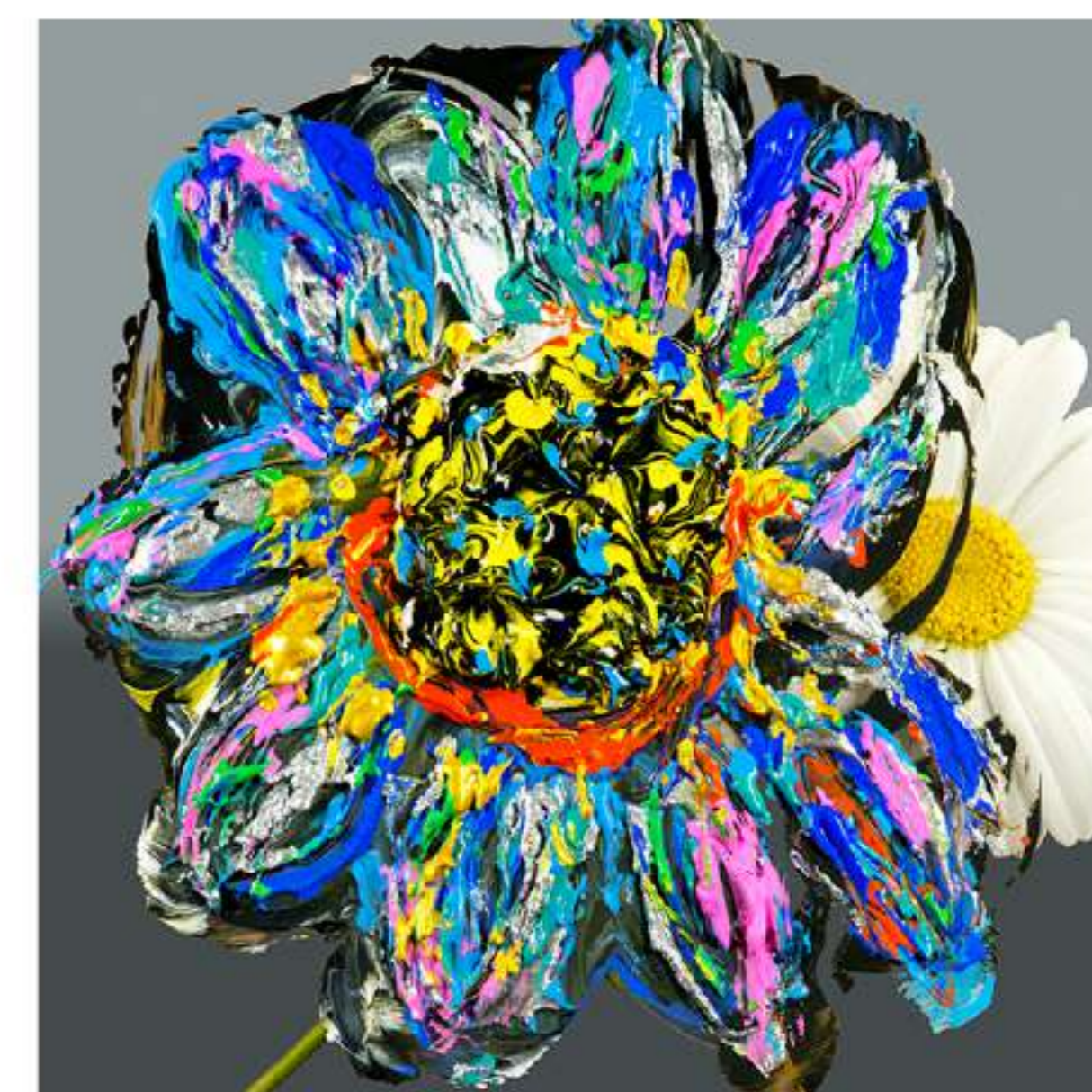
触の時 菖蒲



触の時 雪下草



触の時 浦島草



触の時 除虫菊 b

